

この原稿を執筆しているのは2020年3月26日であり、新聞発行時とは状況が異なっている可能性があることをご承知おき下さい。

新型コロナウイルスの蔓延により会議、講演会などの行事が中止、延期されています。会員の皆様方も日々対応に奔走されていることかと思えます。

新型コロナウイルスとときに比較されるのがペストとスペインかぜです。17世紀にヨーロッパで発生したペストは黒死病と恐れられ、ヨーロッパの人口の実に3分の1が、1918年に流行したスペインかぜでは2000万人から4000万人の方々がそれぞれ亡くなられています。スペインかぜの原因がH1N1インフルエンザウイルスであることが分かったのは後のことであり、当時の人々はまさしく姿の見えない敵

と戦っていたことになります。このように先人たちは立ち向かうすべを持つことなく、不自由な医療環境の中でもこの見えない敵に打ち勝ち今日の繁栄を築き、医療水準のレ

ぜとは異なり、今回は敵の姿はみえています。感染しないため、感染させないためにはどうしたらよいのかを医療関係者は一般市民以上に意識しておかなければなりません。

医学、医療技術の進歩の恩恵により過去のパンデミック感染症とは異なり、近いうちにこのウイルスに対してワクチン、治療薬が登場してくることが期待されます。この2つが揃えば新型コロナウイルスは必要以上に恐れることがなくなるでしょう。

一方で、一部ではありますが「医療が進歩しているのだから、感染したら病院にかかって治してもらえばいい」的な考えを持っている方々がいるのも悲しい事実です。決して過信してはなりません。医療は不自由なのです。

こんな時こそ、あえてこの不自由さを認識し、今それぞれができることを見直す機会にしてはいかがでしょうか。ひとりひとりが手洗い、うがい、咳エチケットの励行していただくことを切に願います。

論壇 ①

医療を過信してはならない

茨城県保険医協会副会長 高橋 秀夫

ベルアップをしてきたのです。多くの犠牲者をはらいながら。

新型コロナウイルスに対してもワクチン、治療薬などを現在我々は有効な対応手段を持ち合わせていません。しかしペスト、スペインか

市民の間においても、日本ではうがい、手洗い、咳エチケットの実施率が高く、現時点で諸外国に比べて日本の感染者数、死亡者数が少ないのは日本人の国民性の所以かと個人的には思っています。